



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 副理事長 渡邊 雄一郎

第 15 号 since2005.6.1

残暑が厳しい折、いかがお過ごしでしょうか。無事 2020 年に東京でオリンピックが開催される運びとなり、今から 7 年先を楽しみにしている方も多数いらっしゃる事かと思えます。

本号では、5 月に諸塚村で開催いたしました第 18 回九州森林フォーラムの様をお伝え致します。エクスカーションでは、諸塚村の林業現場を見学する機会を頂きました。印象に残っているのは、急斜面での森林施業と、それを支える為の路網整備です。最近、林野庁も路網整備について、強力な支援を行なっていますが、諸塚村では地域ぐるみで昔から路網の管理に取り組んでおられました。今回は時期の問題もあり、葉枯らし乾燥を見る機会はありませんでしたが、葉枯らし乾燥に関しても、諸塚村は独自に支援を行っているとの事で、地域ぐるみで、林業を支えている現場を見る事ができ、非常に有意義だったと思えます。

今回は、対馬市全面バックアップの下、第 2 回プレミアム研修会を長崎県対馬市で開催する予定です。最近話題にもありました 260 万平方キロの山林の競売など、色々と話題の多い対馬市の実情を知る良い機会になるかと思えます。皆様の参加を心よりお待ちしております。

発行日 2013.9.XX

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分・上津江オフィス

【目次】

第 18 回九州森林フォーラム
の報告 P.2～P.5

第 2 回会員向けプレミアム
研修会のお知らせ P.6



第 18 回九州森林フォーラム IN 諸塚 の報告 平成 25 年 5 月 17 日～18 日

「地域が生きる林業の未来を問う」

～美しい森林は誰のものか～

「森林資源は余剰だから、消費すべき」という論理によって出材圧力にドライブがかかり、コストダウンの為に高価な大型機械を導入し、資金繰りもあって大規模な伐採が進んでいます。

「木材自給率 50%」を目標に、成長戦略として木材産業の大量生産政策は進むが、人口減少で資本ストックの過剰は明らかであり、合板、製紙の原料の国産材化とバイオマスの普及を言うが、これらは建築材料よりもはるかに安く、今以上の原木価格の暴落を招く可能性があります。その一方で、健康志向、安全・安心、環境保全への要求は大きく、その意向にマッチした商品は堅調に消費される実態を見ると、単なる増産政策だけでなく、ユーザーの要望を的確に把握し、そのニーズに合った商品の販売促進を図るべきであろうという意見もあります。森林は多種多様であり、地域の実情を加味し、単なる数字や経済論理、市場原理だけで森林を計算するのではなく、山村地域の資源を限りあるものとしてとらえ直し、地域の中で持続可能な森林・林業の構築を目指すべきではないか、農林家の経営とは何か、美しい森林を活かしつつ、そこに住まい、生業を続ける人たちの未来はどうあるべきかについて議論してきました。

第 1 部 5 月 17 日（金）九州森林フォーラム IN 諸塚村 基調講演

フォーラムでは、田中 淳夫(たなか あつお)氏(森林ジャーナリスト)、後藤 國利(ごとう くにとし)氏(前大分県白杵市 市長)により基調講演が行われました。



(1) 田中 淳夫(たなか あつお)森林ジャーナリスト
による基調講演
「美しい森が、日本の林業を救う」



(2) 後藤 國利(ごとう くにとし)前大分県白杵市
市長による基調講演
「森林経営計画を活用した新しい地域型林業を！」

第2部 5月17日(金) 九州森林フォーラム IN 諸塚村 パネルディスカッション

佐藤宣子氏(九州大学農学部 教授)のコーディネートで、パネリストは、佐藤 和歌子氏(NPO 法人森をつくろう)、甲斐 若狭氏、藤掛一郎氏(宮崎大学農学部 教授)に加え、田中 淳夫氏(森林ジャーナリスト)、後藤國利氏(前大分県臼杵市 市長) のメンバーで行いました。



第3部 5月17日(金) 交流会

九州森林ネットワーク会員 及び 諸塚村の皆さんと交流会を行いました。



第4部 5月18日(土) エキスカーション

① 研究班：諸塚村の林業振興紹介(森林施業現場、諸塚木材加工センターほか)



(1)諸塚村内の作業路



(2)重機を使った伐採、搬出



(3)諸塚木材加工センター



(4)列状間伐

■ 参加者

100名

■ 参加者からのコメント (抜粋)

拡大造林の始まった頃農業高校を卒業と同時に帰郷した者です。当時何かが違うのではないかと感じた事を思い起こします。これから諸塚の森がどのようになっていくか。大量伐採と補助金頼りの再造林のゆく末に不安を感じます。私も小面積ながら美しい森づくりを夢見て現在に至っています。本日の講演の内容と私の実践してきた事が同じ視点にある事がわかり自信になりました。(林家、60歳以上)

市町村林政の大切さを感じた。住民、議員、首長が山のことをよく知らなければならない、でないとな国のいいなりになってしまう。九州山村はそこがしっかりできているから元気なのだと思う。このネットワークが住民自治を育てるのに一役かえればすばらしいと思う。(研究者、30代)

林家の生計と国の施策、後継者の育成、林家、自治体、国、研究者、本フォーラムの成果を国の施策に反映させてほしい。そのための類似団体の連携を。(その他、年金生活者)

森林、林業を盛り上げるためにはそれぞれの分野が連絡をとりつつ得意なことに力を注ぐことが大事なのかなと思いました。供給→山側、需要→川下かなど。制度のことに理解を深めることができました。でももっと質問の時間があればいいなと思いました。(学生、20歳代)

QFN 通信会員便り

NPO法人九州森林ネットワーク 監事
 一級建築士事務所 ののデザイン
 渡邊 美恵

福岡市内 マンションのリノベーション事例ご紹介

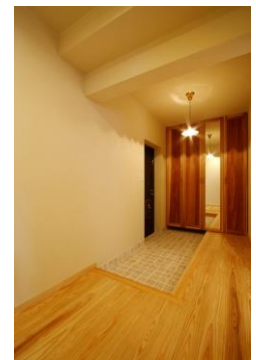
福岡市は、全国政令指定都市の中で、マンション化率が全国2位、マンションのストック数も全国4位という状況の中、また木材消費地のまちと木材生産地が近いという特徴を活かし、中古マンションの木質化に取り組んでいます。



ビフォー



アフター



アフター

実際、どのくらい地域材をつかっているのか？

90m² マンションフルリノベーションで、7.392m³ $0.0814\text{m}^3/\text{m}^2$ =木造戸建ての約半分
 建具を杉無垢材、家具を造作（杉無垢材+集成材）とする事で、杉の使用量が大きく伸びています。
 床材等もマンション施工にも適したサイズや加工など、生産地と話し合いをしながら改良を重ねています。

NO	内容	実質使用量 (m ³)	使用係数	製材使用量 (m ³)	%
1	床材	0.487	0.5	0.974	7.6
2	天井材	0.248	0.5	0.496	3.9
3	木化粧材	0.5	0.5	1	7.8
4	鴨居・枠	1	0.5	2	15.6
5	下地用粗材	1	0.66	1.5	11.7
6	建具	0.361	0.5	0.722	5.6
7	収納建具	0.928	0.5	1.856	14.4
8	家具	2.8677	0.66	4.302	33.5
合計m ³		7.392	0.57	12.850	

S様邸マンションリノベーション概要

改修床面積	90.82m ² (27.47坪)
改修範囲	フルリノベーション
建物概要	築33年 RC壁式 3階/4階建て
改修マンション地域	福岡市中央区大濠
改修期間	2012.6.18-2012.9.26

※「木造軸組工法住宅の木材使用量」 2000年日本木材・住宅技術センター調べ

調査対象：2階建木造軸組工法住宅

床面積1平方メートル当たりの木材使用量：0.1795立方メートル

調査対象住宅の平均床面積：138.8平方メートル

以上から計算できる一戸あたりの木材使用量：0.1795×138.8=24.9立方メートル

NPO 法人九州森林ネットワーク第2回プレミアム研修会のお知らせ

■日程：平成25年11月8日（金）～11月10日（日）

■集合：11月8日（金）10:00 博多港 又は 15:00 対馬市厳原港 集合

■テーマ：「中世の自然が生きる島で学ぶ」

～ 地域の特色ある森づくりを考える ～

島の89%を占める森林には、国立公園に指定される中世が生きているとも言われる豊かな自然が残り、ツシマヤマネコをはじめとする希少動物も存在し、環境保護や低炭素社会化のためのJクレジットも発行されています。また、人工林では伐期を迎えるヒノキ林も多く、森づくり条例も制定されています。また、漁業も主産業であり、島の中での森と里と海の連関が必要です。また、島おこし協働隊として、生物多様性や有害鳥獣対策などのI-ターン者受入などの移住・交流事業も行われています。本土との流通など、島という不利な、克服すべき課題も当然ありますが、豊かな資源があるなど、島だからこそという利点をどう活かすか、全国一律ではない、地域の特色ある森づくりについて考える絶好の機会です。

今回は、対馬市役所の全面的なご協力で実現した機会も兼ねた研修会です。皆様の積極的なご参加を宜しくお願いいたします。

■参加費：15,000円（会員）、20,000円（会員外）

■宿泊場所：宿坊 対馬西山寺（対馬市厳原町国分1453 TEL:0920-52-0444）

■持ち物：寝間着、洗面セット、着替え等が必要です。動きやすい服装でご参加ください。

■定員等：先着30名様まで 10月10日（木）申し込み〆切

※ 完全予約制ですので、ご参加される方のお名前・住所・電話番号を下記までお知らせ下さい。

■主催：NPO 法人 九州森林ネットワーク

■プログラム（予定）：

11/8（金） 10:00	博多港（又は 14:00 対馬市厳原港）集合
14:00～	対馬市役所レクチャー
～17:00	宿泊所チェックイン
18:00～21:00	交流会
11/9（土）	
08:30～16:00	現地視察
18:00～	九州森林ネットワーク理事会・総会
19:00～	勉強会「条件不利地における地域資源の活かし方について」
11/10（日） 08:00	自由参加 エキスカーション 島内見学 ※随時解散

■問い合わせ先：NPO 法人九州森林ネットワーク事務局（宮崎県諸塚村 企画課内）

TEL:0982-65-1116 FAX:0982-65-0032

Mail:k.matsumura@morotsuka.jp